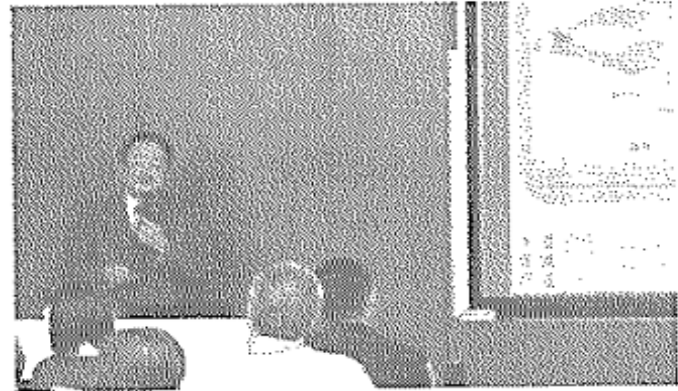


# 香川大瀬戸内圏研究センターが学術講演会

「香川大学瀬戸内圏研究センター学術講演会」が、去る12月25日に開催された。この講演会は、同センター（本城凡夫ゼネラルマネージャー、多田邦尚センター長）が推進する「海・歴史・文化・観光・遠隔医療・水」の各分野に関連する研究者による講演を通して、同センターが進める研究や取り組みに対して示唆と弾みを与えてもらうとともに、広く市民にも、最新の知見や取り組みなどへの理解増進を目的としている。

香川大農学部の東江栄教授による「水質改善基質として利用された植物の多面的価値について」、香川大医学部の南野哲男教授による「香川県の心原性脳梗塞をゼロにするプロジェクト」と題した講演を実施した。



発表する  
多田センター長



熱心に聞き入る参加者



質問に答える  
本城GM

さらに、広島修道大商学部の富川久美子教授が「ヨーロッパのリゾート島」、大阪市立大名誉教授の矢持進氏が「大阪湾東部沿岸域に造成された塩性湿地の環境動態」をテーマに講演。いずれの講演も、専門家の立場から大いに興味深い話が語られるなど、有意義な学術講演会となった。会場には市民らも含めて約50名が参加するなど大いに盛り上がった。